

研究・調査報告書

報告書番号	担当
40	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Vitamin B6 intake, alcohol consumption, and colorectal cancer: a longitudinal population-based cohort of women. ビタミン B6, アルコール摂取と大腸がん: 女性地域集団を対象にした経時的コホート研究	
執筆者	
Larsson SC, Giovannucci E, Wolk A	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Gastroenterology. 2005;128:1830-7.	
キーワード	
ビタミン B6, アルコール摂取, 大腸がん, コホート研究, 女性	
要旨	
<p>目的:</p> <p>長期間におよぶ食物によるビタミン B6 摂取と大腸がん発生との関連を検討するとともに、この関連がアルコール消費によって修飾されるかを検討した。</p> <p>対象と方法:</p> <p>対象はスウェーデンのマンモグラフィを実施している地域集団(コホート)とした。40-79 歳スウェーデン女性でがん罹患歴がなく、1987-1990 年に食事頻度調査票を記入した 61,433 人とした。1997 年に食事に関する情報は更新され、平均観察期間 14.8 年の追跡ののち、805 人が大腸がんと診断された。</p> <p>結果:</p> <p>年齢および潜在的な交絡因子を調整した結果、ビタミン B6 摂取と大腸がん罹患には負の関連があった。摂取頻度に応じ 4 分割して解析すると、摂取の多い上位 25% のグループでは、下位 25% のグループと比較して 34% のリスク減少が見られた。この傾向は適度に/多量に飲酒する人々でとくに顕著であった。30g/週以上(週 2 回飲酒に相当)のアルコール摂取する人々では、ビタミン B6 摂取上位 25% グループと下位 25% グループの間のリスク減少は 72% であった。</p> <p>結論:</p> <p>この研究の結果、ビタミン B6 が大腸がんの予防に役割を果たしていることが示唆された。とくにアルコールを飲んでいる女性でその傾向が顕著であった。</p>	